

質問に対する回答書について

工事名) 秋田自動車道 相野々橋 (PC上部工) 工事

質問事項と回答

番号	質 問	回 答
1	割掛対象表参考内訳書 3 頁 割掛対象表参考内訳書 移動作業車設備費 【低床式移動作業車 使用台数 1 台】について 一般型 2 主桁移動作業車は建設機械等損料表に損料等の単価記載はありますが、低床式移動作業車は建設機械等損料表には基礎価格及び損料の記載がありません。低床式移動作業車の基礎価格及び損料等の見積等による価格をご教授願います。また、特別調査の場合はご公表願います。	割掛対象表参考内訳書に関するご質問はお答えできません。
2	割掛対象表参考内訳書 3 頁 同様に、低床式の移動作業車附属設備費、足場設備損料・消耗費、組立解体費は一般 2 主桁移動作業車とは違う単価・歩掛なのでしょうか、ご教示願います。	割掛対象表参考内訳書に関するご質問はお答えできません。
3	割掛対象表参考内訳書 4, 5 頁 割掛対象表参考内訳書 仮支柱工費について 5 箇所の仮支柱を設計されて仮支柱材料の数量が設計図に明示されていますが、以下のどれで積算すると考えていますか。 ①仮支柱鋼材質量のみ使ってベント設備損料とベント設備設置・撤去の歩掛で積算する。 ②仮栈橋の直接基礎の橋脚として高力ボルトを含む材料費の積上げと、仮栈橋下部工の設置撤去、ボルトの孔開け工・本締め工で積算する。 ③その他	割掛対象表参考内訳書に関するご質問はお答えできません。

4	割掛対象表参考内訳書 2 頁 割掛対象表参考内訳書 支保工費【工事用車両通路支保工】について P 1－P 2 橋脚間（起点側）（中間）（終点側）にそれぞれ『運搬距離 81.9 k m－1 式』と記載されていますが、一式の重量は、橋梁全幅 10.71m・支保工スパン 7.5m (10.0 m)・桁下高さ 5.4m (6.0m) の各条件から計算される重量なのか、相野々橋（PC 上部工）工事 設計図 (1/4) 上部工 P1-P2 橋脚間（起点、中間、終点）開口部詳細図 (221～223)/229 の各数量表のボルトを除く鋼材重量なののでしょうか。また、この鋼材の運搬費は、支保工費で積上げるのでしょうか、1 頁の仮設資材等運搬費で積上げるのでしょうか。ご教示願います。	割掛対象表参考内訳書に関するご質問はお答えできません。
5	割掛対象表参考内訳書 2 頁 同様に、支保工費の【柱頭部ブラケット支保工】、【側径間吊支保工】、【中央閉合支保工】の鋼材の運搬費は、支保工費で積上げるのでしょうか、1 頁の仮設資材等運搬費で積上げるのでしょうか。ご教示願います。	割掛対象表参考内訳書に関するご質問はお答えできません。
6	割掛対象表参考内訳書 3,4 頁 割掛対象表参考内訳書、支保工基礎費【工事用車両通路支保工】では P 1－P 2 橋脚間（起点側・中間・終点側）◆基礎撤去時 構造物掘削（土砂 B）の各数量 12.3m³、7.0m³、9.2m³（地山土量）と記載されていますが、相野々橋（PC 上部工）工事 設計図 (1/4) 上部工 P1-P2 橋脚間開口部基礎配筋図（参考図）224/229 の数量表ではそれぞれ 29.7m³、20.7m³、25.1m³ と記載されています。割掛対象表参考内訳書の方が正しいのでしょうか、ご教示願います。	支保工基礎費【工事用車両通路支保工】の P 1－P 2 橋脚間（起点側・中間・終点側）◆基礎撤去時 構造物掘削（土砂 B）の数量は、それぞれ割掛表参考内訳書に記載されている数量の 12.3m³、7.0m³、9.2m³ となります。 交付図書の一部に誤りがありましたので後日訂正いたします。
7	特記仕様書 31 頁 26-13 工事用仮栈橋（2）種別-A2 撤去-区分欄に緩衝ゴムの撤去とありますが、数量が不明です。ご教示ください。	令和 8 年 7 月 24 日掲載の「質問に対する回答⑭」質問番号 3 に対する回答のとおりです。

8	設計図面 P224/229 数量計算書 P39 下記のとおり構造物掘削の数量が 12.3m³ となっておりますが、設計図面 (P224/229) および数量計算書 (P39) では埋戻し数量と同様の 29.7m³ となっております。どちらの数量が正しいでしょうか、ご教示願います。 【工事用車両通路支保工】 P 1－P 2 橋脚間（起点側） 支保工基礎 一式 ◆基礎撤去時 構造物掘削（土砂 B） 12.3 m³（地山土量） 埋戻し（土砂 B） 29.7 m³（盛土土量）	本「質問に対する回答書について」質問番号 6 に対する回答のとおりとなります。
9	設計図面 P224/229 数量計算書 P42 下記のとおり構造物掘削の数量が 7.0m³ となっておりますが、設計図面 (P224/229) および数量計算書 (P42) では埋戻し数量と同様の 20.7m³ となっております。どちらの数量が正しいでしょうか、ご教示願います。 【工事用車両通路支保工】 P 1－P 2 橋脚間（中間） 支保工基礎 一式 ◆基礎撤去時 構造物掘削（土砂 B） 7.0 m³（地山土量） 埋戻し（土砂 B） 20.7 m³（盛土土量）	本「質問に対する回答書について」質問番号 6 に対する回答のとおりとなります。

1 0	設計図面 P224/229 数量計算書 P45 下記のとおり構造物掘削の数量が9.2m³となっておりますが、設計図面（P224/229）および数量計算書（P45）では埋戻し数量と同様の 25.1m³ となっております。どちらの数量が正しいでしょうか、ご教示願います。 【工事用車両通路支保工】 P 1－P 2 橋脚間（終点側） 支保工基礎 一式 ◆基礎撤去時 構造物掘削（土砂B） 9. 2 m³（地山土量） 埋戻し（土砂B） 2 5. 1 m³（盛土土量）	本「質問に対する回答書について」質問番号 6 に対する回答のとおりとなります。
1 1	設計図面 P217/229～P220/229, P224/229 R8. 07. 09 質問回答書 番号 5 では「上部工設計図 224/229 に記載の開口部基礎に要する生コン、鉄筋、型枠、アンカーボルトについては、割掛対象表参考内訳書の支保工基礎費の支保工基礎一式に含む」と回答されています。 一方、番号 10 では「特記仕様書 P. 36 【26-17】に記載の仮支柱工費の内訳について、上部工設計図 P. 217/229～220/229 及び 224/229 に記載の数量表のうち、仮支柱底版及び開口部基礎に関する費用は割掛対象表参考内訳書における仮支柱工費に、・・・」と回答されており開口部基礎に関する内容について矛盾が生じております。 つまり、開口部基礎に要する生コン、鉄筋、型枠、アンカーボルトについては支保工基礎費に計上し、仮支柱底版部基礎に要する生コン、鉄筋、型枠、アンカーボルトについては仮支柱工費に計上するとの理解でよろしいでしょうか、ご教示願います。	そのとおりです。 開口部基礎に要する生コン、鉄筋、型枠、アンカーボルトについては支保工基礎費に含まれるものとお考えください。仮支柱底版部基礎に要する生コン、鉄筋、型枠、アンカーボルトについては仮支柱工費に含まれるものとお考えください。

1 2	設計図面 P203, 206, 209, 212, 215/229 図面を拝見すると、山留材にはスチフナーおよびガセットプレートが溶接により取り付けられる計画となっております。 山留材に溶接による補強材等の取付を行う場合、原形復旧が困難であることから購入品として取り扱われますが、本工事においても同様の解釈でよろしいでしょうか。 また購入品として取り扱う場合、当該山留材は仮設材運搬の対象外になるものと考えます。一方で、R8.07.08 質問回答書の番号5と整合性が取れませんがどのようにお考えでしょうか。	山留材の取り扱いについては貴社の施工計画に基づきお考えください。 また、令和8年7月8日掲載の「質問に対する回答書について⑫」質問番号5の仮設材運搬費に計上する数量（重量）も貴社の施工計画に基づきご算出ください。
-----	---	--